

科目名		小児聴覚障害			授業の種類	演習	講師名		
授業回数	15回	時間数	30時間	(1単位)	配当学年・時期	言語聴覚士科3年		必修・選択	必修
〔授業の目的・ねらい〕									
聴覚障害の分類、原因と発達段階に沿った聴力検査の方法、補聴器の装用と聴能訓練について学び、療育と就学問題、家族の援助方法について考察する。									
〔授業全体の内容の概要〕									
聴覚障害の分類、聴力検査の方法、補聴器の装用と聴能訓練、療育と就学問題、家族の援助方法を学ぶ。									
〔講師の実務経験〕									
〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕									
小児を中心に聴覚障害の特徴を理解し、リハビリテーションに必要な評価法、指導法の基本を習得する。									
回数	講義内容								
1	小児期の聴覚障害とリハビリテーションの考え方								
2	聴覚障害の発見と診断								
3	難聴の発症時期と障害								
4	難聴ハイリスク因子、二次的障害								
5	早期リハビリテーションについて								
6	小児の指導・訓練 A. 小児聴覚障害の特徴、B. STの役割								
7	小児の指導・訓練 C. コミュニケーションと言語習得、D. 聴覚活用と聴覚学習								
8	小児の指導・訓練 E. 聴覚障害児の音声言語獲得上の課題								
9	小児の指導・訓練 F. ハビリテーションプログラムの立案								
10	小児の指導・訓練 G. 子どもの発達段階と学習方法 H. 言語発達段階								
11	小児の指導・訓練 I. 乳児期の指導：前言語期段階								
12	小児の指導・訓練 J. 幼児期の指導：言語習得段階								
13	小児の指導・訓練 K. 学童期の特徴								
14	小児の指導・訓練 K. 学童期の特徴 書記言語学習指導								
15	まとめ								
【 準備学習・時間外学習 】									
【 使用テキスト 】									
書籍名					著者名		出版社		
標準言語聴覚障害学 聴覚障害学 第3版							医学書院		
聴覚検査の実際 改訂4版							南山堂		
【 単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など） 】									
試験の結果を100点満点として成績を評価する。試験は定期試験のみ実施とし、60点以上の場合に科目を認定する。									